

令和6年度 事業計画書

社会福祉法人 至福の会

本部

特別養護老人ホーム むさしの園

ケアハウス むさしの園

むさしの園デイサービスセンター

サービス推進課

特別養護老人ホーム むさしの園わかば

むさしの園デイサービスセンター富士見

むさしの園在宅介護支援センター

社会貢献活動

生活困窮者に対する相談支援事業

ひまわり保育園

むさしの森保育園

目 次

本 部	P 1 ～ 2
組織図	P 3
特別養護老人ホーム むさしの園	P 4
ケアハウス むさしの園	P 5
むさしの園デイサービスセンター	P 6 ～ 7
サービス推進課	P 8
特別養護老人ホーム むさしの園わかば	P 9
むさしの園デイサービスセンター富士見	P 10 ～ 11
むさしの園在宅介護支援センター	P 12
社会貢献活動	P 13
生活困窮者に対する相談支援事業	P 14
ひまわり保育園	P 15
むさしの森保育園	P 16

令和6年度 社会福祉法人至福の会 事業計画

1 社会福祉法人至福の会の経営理念「クレド」の実践

～関わる全ての人を幸福にすること～

We thank beautiful life

2 社会福祉法人至福の会のビジョン

「自分が心から利用したいサービスを提供していきます。」

3 事業計画

新型コロナウイルス、物価高騰等の影響で財務体制が弱まっていますが、今後の賃上げ等を推進するには、人材育成、財源確保強化が必要とされています。

当法人と地域とのつながりが様々な場面での取り組みを再開し、社会福祉法人の社会貢献が求められている中、当法人としても福祉の拠点として地域の方々への認識向上を図ります。

理事会・評議員会、監事会の開催については、別紙「令和6年度至福の会会議予定表」にて進めて参ります。定款に定める決議事項及び重要な事項について必要な場合は、その都度理事会又は評議員会を開催します。

4 組織図

別紙「社会福祉法人 至福の会組織図」の体制とします。

5 経営方針について

具体的な内容

1、人材育成

今年の埼玉県福祉研究大会は、2つの実践又は研究発表を6月申し込み行います。

上記とは別に毎年の計画として、各チーム、各ユニット、各在宅サービスの介護技術向上を目的に介護技術研究、実践発表を行います。期間は、4月～12月発表は4月予定し、審査により優秀チーム1,2,3位を選出→翌年の埼玉県福祉研究大会に出場優秀賞を取得した場合→関東ブロックで優秀賞取得を目指すことで介護専門性、技術の向上を図ることを目的とします。尚、大会毎に優秀賞チームに金一封を支給します。

2、目標基本設定

特別養護老人ホーム 定員に対して稼働率98%以上
デイサービスセンター年間月平均延べ人数850人以上
在宅介護支援センター一人当たり38ケース以上
むさしの森保育園定員に対して110%以上

3、彩の国セーフティネットワーク事業への取り組み

4、地域の自治会夏祭り会場等の提供、わかばカフェの継続

5、人材確保は継続し、特定技能等の外国人採用も継続する

6、離職率10%以下を目標とする

7、BCP計画に基づく訓練を実施する

令和6年度至福の会会議予定表

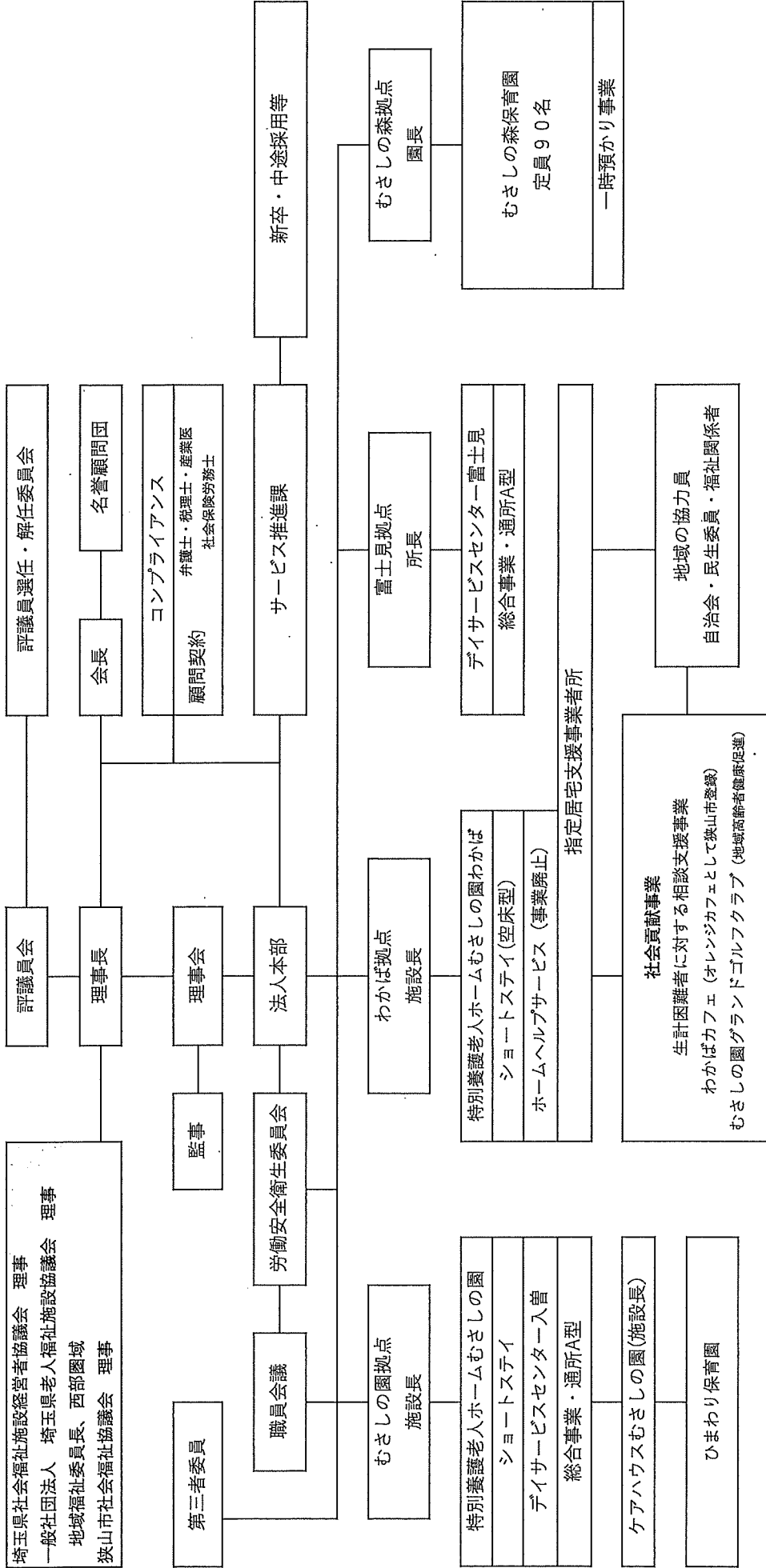
理事会・監事会

令和6年	6月	4日	監事監査	午後10時～12時
			理事会	午後1時30分～3時30分
	10月	11日	理事会	午後3時～4時
令和7年	3月	26日	理事会	午後3時～4時

評議員会

令和6年	6月	19日	評議員会	午後3時～5時
------	----	-----	------	---------

社会福祉法人 至福の会 組織(令和6年4月1日～)



事業所目標	【1】稼働率 特養/ショートステイ 平均98%/年 【2】介護事故削減 前年対比15%目標 【3】保育園、デイ、ケアハウスとのイベント開催 【5】定着率向上（離職率10%未満） 【5】職場環境の改善 設備の充実と活用 【6】BCPの運用シュミレーション
-------	---

行動目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
【1】特養稼働	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98%
【1】特養新規申込	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
【1】ショート稼働	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	
【1】SS新規申込	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
R5事故平均25回/月													0
													0
【環境改善】													
設備導入+実地研修	—————→												

行動目標

<p>【稼働】</p> <p>1、退居後のブランクを2週間以内に短縮 待機者へのこまめな状況確認及び実態調査の先行実施</p> <p>【事故削減】</p> <p>1、前年対比15%削減 2、事故事例検討におけるPDCAサイクルの徹底</p> <p>【定着率向上】</p> <p>1、新卒フォローアップ：1・3・6・12か月で面談及び研修を実施する。 2、職員のキャリアアップ支援 研修、展示会等参加機会の提供 3、職場環境整備：業務負担軽減を目的とした設備への投資 介護ソフトの移行に伴う設備の変更（ナースコール、コミュニケーションツール）</p> <p>【職場環境の改善】</p> <p>1、介護ソフト入れ替え 2、車いすの入替（令和6年度で2割の入替を想定⇒新古品の活用） 3、資格取得支援（喀痰吸引研修の継続的実施、指導講習受講者の選抜） 4、大規模修繕施工</p>
--

事業所目標	【1】稼働率 平均95%/年 【2】クラブ活動 【3】外出レクの再開
-------	--

結果	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
稼働(平均)	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	1140.0	95.0
クラブ活動	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4.0

【稼働】

安定した入居率を維持するため営業活動の強化
 退去、転居（特養）が増えたため、待機者が減少したことから地域への営業活動を強化
 狭山市と連携し、高齢者の住まい確保を第9期計画に盛り込んでもらいケアハウスの周知を協力いただく

【クラブ活動の再開】

クラブ活動週1回以上のペースで定期的な開催を継続
 手芸クラブ 保育園の手作りおもちゃの製作、衣装の製作を請け負い。園児との定期的な交流を増やします

【外出レクの再開】

地域への買い物レクを毎月開催し、外出機会を増やします。

事業所目標

- 【1】稼働率 月間延べ人数850以上を目指す
- 【2】クオリティーインプループメントに取り組む
- 【3】高齢者虐待ゼロを目指す
- 【4】感染症に対する知識・対応力のレベルアップ
- 【5】事業継続計画（BCP）
- 【6】定着率向上（離職率10%未満）

行動目標	4月～6月			7月～9月			10月～12月			1月～3月			合計
【1】稼働	850	850	850	850	850	850	850	850	850	850	850	850	
【1】新規申込	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
【2～4】内部監査					1						1		2
【2～4】研修実施	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
【5】環境改善	1			1			1			1			4

行動目標

【稼働】

【1】稼働率月延べ人数850以上を目指す、月平均5件の契約を獲得していく為に月一回以上の訪問や電話連絡等行い

ご利用者様の近況を報告することで、居宅事業所、地域包括との連携を図る
各居宅事業所とのコミュニケーションを強化し新規利用に繋げていく

【2・3】高いサービスを提供する為に、介護保険改定に伴う各制度の整備を行い、研修や会議を適宜行う

①接遇 ②介助スキル ③職場教育 ④施設内ルールの見直し ⑤実務者研修の継続

【4】常に新規情報への関心を持つことで予防できるような体制作り

【5】災害時でも有用なイベントを行う（芋煮・おしるこ等）と共に感染を想定した訓練を取り入れる

【6】定期的な管理者による職員面談を行いフォローアップを行う

【その他】

1、職場環境整備：働き方改革に合わせて職場環境や福利厚生を整える。

2、地域交流の再開に向けて感染症対策を行いながら、ボランティア等の受け入れを積極的に行っていく

3、災害や感染症を想定し、感染者が出た場合のシュミレーションなどを取り入れながら訓練を行う。

昨年度は「より高いサービスを提供することによって多くの事故が未然に回避できる」という考え方で取り組みを行い、スタッフにも周知徹底することが出来ている為引き続き体制を整えていく。

又コロナ禍が落ち着く事で、地域交流を含め至福の会のイメージアップに向けて、職員、利用者、ご家族だけでなく、介護に係るすべての人に優しさを伝えられるデイサービスを目指します。

令和6年度 通所介護事業所 職員研修計画

〈内部研修〉

予定月	研修内容	イーケアラボ	時間
4月	マナー・接遇	50 元NHKキャスターが伝える接遇研修<相澤 静> 第1～2章	59分
5月	認知症・認知症ケア	04 認知症 応用<福嶋 潤一> 第2～3章	46分
6月	事故対応や再発防止	62 事故発生又は再発防止<馬場 博文> 第1～3章	45分
7月	緊急時の対応	60 緊急時の対応<森 幸夫> 第1章と4章	56分
8月	レクリエーション	49 レクリエーションの工夫・コツ (レクシル提供) 第1章	59分
9月	BCP 非常災害について	24 非常災害時の対応に関する研修<須賀 啓臣> 第8～10章	62分
10月	感染症・食中毒の 予防やまん延防止	44 感染症・食中毒の予防、蔓延防止<田原 ひとみ> 第1～2章	40分
11月	高齢者虐待防止	47 虐待防止の基礎<鈴木 貴彦> 第1～2章	53分
12月	身体拘束防止	66 身体拘束～専門職として知っておきたい視点～<木村 誠> 第1～2章	46分
1月	介護予防及び 要介護度進行予防	68 介護予防及び要介護度進行予防<馬場 博文> 第1～2章	46分
2月	倫理・法令順守 プライバシー	51 プライバシー保護の取り組み<森 ゆき> 第1～3章	52分
3月	ハラスメント対策	53 ハラスメント防止<森 ゆき> 第1～3章	60分

部署目標	<p>【1】採用：昨年からの大幅な賃上げ等が拡大していく中で、大手及び異業種の求人市場調査を行い、法人の魅力や特色を見えやすくし人員を確保する。 介護職等：45人（内新卒4人）、保育職等：5人（内新卒2人）</p> <p>【2】人材定着支援：各部署からの情報をサイボウズや訪問等をして情報共有</p> <p>【3】離職防止：法人全体の離職率を10%未満（実態調査では14.4%）</p>
------	---

行動目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学校訪問	5	5	5	10	10	10	5	5	5	0	0	0	60
合同説明会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
中途採用数	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	37
新卒採用数	0	0	0	0	0	0	2	2	2	1	1	0	8
年間計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入職者面談	—————→												
既存職員面談	—————→												
人材定着支援	—————→												

行動目標

<p>【採用目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校訪問：新卒採用のため、定期的な訪問をし、特に短大・高校をターゲットにする。 2. 合同説明会参加：埼玉県・ハローワーク・社協・労働局等が主催するイベントは積極的に参加する。 3. 法人ホームページ：常に最新情報を表示して求人媒体からのつなぎ閲覧に対して興味を喚起する内容にする。事業所のイベントなど求職者へ説明する内容の映像化を掲載及び最新に更新する。 4. 採用活動管理：学校訪問、説明会参加など行動を予実管理し効果が高いものを分析する。 採用媒体の選定をするため、新しい媒体との打ち合わせを実施。 5. 採用活動費用管理：採用にかかる費用を集計して予算管理をする。予算は前年度同様6,000,000円。 6. 採用マーケティング：求職者のニーズ把握をする。地域性・年齢層・時事的な状況を分析し、介護保育だけでなく、他業種の求人状況も踏まえて採用手法を変えていく。 7. 求人票作成の際は、雇用後に育成を担当する役職者などの意見を聞き、補充人員の要件を具体的にすり合わせを行い、適材適所に配置できるように雇用状況を把握する。 8. 昨年に海外人材を大幅に増員しているため、各個人の勤務状況等を踏まえて海外人材への社員紹介制度の利用開始時期を見極めていく。 <p>【定着支援目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新卒フォローアップ：1・3・6・12か月で面談や研修を実施する。 2. 中途入社職員対応：入職後に面談の機会を作り、内容を所属長等に即時共有し課題解決を図る。 3. 職場環境整備：近隣同業及び他業種の市場調査を実施して、雇用環境を地域水準よりも上回るように施策していく。 <p>【離職防止目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職員面談：状況に応じて職員面談を実施して退職を未然に防ぐ。 2. 施設長と情報共有：配置転換や離職理由から防止できる案はないか共有する。

事業所目標	<p>【1】年間平均稼働率 98%</p> <p>【2】ケアマニュアル及び具体的支援場面の浸透 (根拠に基づくケアの実践、ケアに対する価値観の統一)</p> <p>【3】個別ケア、認知症ケアのスキル向上</p> <p>【4】人財育成（意識改革と資質の向上）</p> <p>【5】職員定着率アップ（離職率10%未満）</p> <p>【6】BCPに基づくシミュレーションの実施、評価</p>
-------	---

行動目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
【1】稼働	99	98	98	99	99	98	97	98	96	96	98	99	98
【1】新規申込	4	4	5	5	4	4	4	3	3	5	3	4	4
【2,3】研修実施	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
【4】人財育成	→												
【6】BCP訓練		○						○					

行動目標

<p>【年間平均稼働率98%】</p> <p>1. 稼働を維持するため、月2回以上の営業活動を行う。申し込み平均月5件を目指す</p> <p>2. 空所期間を減少させるために実調済みの待機者を3名以上確保。毎週待機リストの更新、空所ショートステイの活用を積極的に行う</p>
<p>【ケアマニュアル及び具体的な支援場面の浸透】</p> <p>1. 根拠に基づくケアの実践するためにケアマニュアルを活用し、統一ケアを目指す</p> <p>2. 浸透するための方法をリーダー中心に役職者で話し合い、検討を重ねていく</p> <p>【個別ケア、認知症ケアのスキル向上】</p> <p>1. 24時間シートを更新し、現行の見直しを図る。その方にあった生活をしっかり考える</p> <p>2. 認知症に対する理解を深め、それぞれが専門職の誇りをもって働くことができる</p> <p>【人財育成（意識改革と資質向上）】</p> <p>1. 役職者とリーダー候補の育成。対人援助技術と介護技術、人間力の向上を目指す</p> <p>2. オンラインと集合研修をハイブリットで企画。高齢者福祉研究大会への参加</p> <p>3. 職員一人ひとりの強みを生かし、それぞれが主役になれる企画を考える</p> <p>【職員定着率アップ（離職率10%未満）】</p> <p>1. イベントや研究、企画を通して介護スキルの向上、やりがいの創設（役割作り）</p> <p>2. 職場環境改善（外出イベント等交流の場づくり、職員の定期面談等）</p> <p>3. キャリアパスの明確化による個人の将来ビジョンを可視化する</p> <p>【BCPに基づくシミュレーションの実施、評価】</p> <p>1. 5月、11月にシミュレーションを実施し、従来の計画の内容について振り返りを行う</p> <p>2. 適宜、マニュアルの更新を行う</p>

事業所目標	【1】月延人数 950人 【2】自立支援と認知症ケアのスキル向上 【3】事故再発予防、高齢者虐待防止、クレーム処理等の対応力の向上 【4】BCP業務継続計画（災害・感染症）の研修と訓練の実施 【5】働きやすい環境作りと職員の定着率向上（離職率10%未満）
-------	---

行動目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
【1】月延人数	950	950	950	950	950	950	950	950	920	920	920	950	11310
【1】新規申込	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
【2】会議	1			1			1			1			4
【2・3・4】研修	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
【4】訓練			1			1			1				3
【5】面談						1				1			2
【5】環境改善	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	—————→												

行動目標

<p>【稼働】</p> <ul style="list-style-type: none"> 常に最新の空き状況を念頭に置き、新規獲得に向け、ポイントを押さえた営業を実施します 各居宅事業所や包括支援センターへ、ご利用者の近況報告等をこまめに行い、信頼関係を構築します <p>【ケアの向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内部研修や外部研修（無資格者対象の認知症介護基礎研修）に参加し、知識と介護技術を習得する 認知症チーム、レクリエーションチーム、体力向上チーム等が定期的にチーム会議を開き、現況確認・課題の抽出・対策・実施・評価を行い、職員のスキルアップに繋がっていきます 課題解決の必要性が高い対象者には「ひもときシート」等を活用し、個別のプランを作成し対応します <p>【対応力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内部研修で知識を習得し、事故再発予防、高齢者虐待防止、クレーム対応等の実践に繋がっていきます 些細な事例に対しても、ヒヤリハット報告書、クレーム報告書の作成を積み重ねていきます <p>【業務継続計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> BCP業務継続計画に基づき、災害と感染症発生時の定期的な訓練と見直しを実施します <p>【定着率向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風通しの良い職場づくりを目標に、年2回の定期的な面談を実施し、相談できる環境を提供します 働きやすい環境作りのための柔軟な思考を持ち、毎月コツコツと業務改善に取り組みます
--

令和6年度 通所介護事業所 職員研修計画

〈内部研修〉

予定月	研修内容	イーケアラボ	時間
4月	マナー・接遇	50 元NHKキャスターが伝える接遇研修<相澤 静> 第1～2章	59分
5月	認知症・認知症ケア	04 認知症 応用<福島 潤一> 第2～3章	46分
6月	事故対応や再発防止	62 事故発生又は再発防止<馬場 博文> 第1～3章	45分
7月	緊急時の対応	60 緊急時の対応<森 幸夫> 第1章と4章	56分
8月	レクリエーション	49 レクリエーションの工夫・コツ (レクシル提供) 第1章	59分
9月	BCP 非常災害について	24 非常災害時の対応に関する研修<須賀 啓臣> 第8～10章	62分
10月	感染症・食中毒の 予防やまん延防止	44 感染症・食中毒の予防、蔓延防止<田原 ひとみ> 第1～2章	40分
11月	高齢者虐待防止	47 虐待防止の基礎<鈴木 貴彦> 第1～2章	53分
12月	身体拘束防止	66 身体拘束～専門職として知っておきたい視点～<木村 誠> 第1～2章	46分
1月	介護予防及び 要介護度進行予防	68 介護予防及び要介護度進行予防<馬場 博文> 第1～2章	46分
2月	倫理・法令順守 プライバシー	51 プライバシー保護の取り組み<森 ゆき> 第1～3章	52分
3月	ハラスメント対策	53 ハラスメント防止<森 ゆき> 第1～3章	60分

事業所目標	【1】 担当件数	月 205件
	【2】 新規件数	年 50件
	【3】 予防給付担当件数	月 20件
	【4】 地域貢献活動	
	【5】 研修・会議	
	【6】 BCPの実践及び評価	

行動目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
【1】 担当件数	200	203	206	206	209	209	206	203	203	203	206	206	205
【2】 新規件数	4	5	5	5	4	5	4	4	3	3	4	5	4.2
【4】 わかばカフェ	—											→	
【5】 研修・会議	—											→	
【5】 BCP実践		○						○					

行動目標

【担当件数】
1. 担当件数については、介護給付、予防給付合算で月205件以上を目標とする 2. 月次目標数値として常勤40件、週5非常勤37件、週4非常勤35件とする（計226件）
【新規件数】
1. 担当件数の目標数値を意識し、それぞれがバランスよく獲得できるようセンター内で情報共有を行う
【予防給付担当件数】
1. 予防給付に関しては、月合計20件を目安とし、できる限り偏りがないように受け入れる 2. 予防給付のケースについては、包括との情報共有を密に行い、進めていく
【地域貢献活動】
1. わかばカフェを毎月開催し、コロナ以前のように飲食が出来るようにする イベントは定期的開催ではなく、地域の方が主体で活動している体操などのサークルを自治会に協力をお願いし、行っていく
【研修・会議】
1. 外部研修へ参加し知識と技術を学ぶ。学んだ知識と技術を共有しスキルアップに活かす 2. 内部研修としてE-carelaboを活用し、介護支援専門員としてスキルアップをはかる 3. 水野圏域会議、自立支援型地域ケア会議へ参加し地域課題の発見・地域づくりに努める 4. 支援センター会議、ケースカンファレンスを実施し、情報を共有する 5. 埼玉県老施協、介護保険サービス事業者協議会、コミュニティサロン協議会定例会へ参加する 6. 特定事業所加算の算定要件となる事例検討会や研修を実施する
【BCPの実践及び評価】
1. 5月、11月にシミュレーションを実施し、計画の内容についての振り返りを行う 2. 適宜見直しを行い、有事に備える体制をとる。（災害時利用者一覧の更新等）

社会貢献活動

1、生活困窮者に対する相談支援事業

生活困窮者に対し、限度額 10 万円までの現物を支給。(食料品、公共料金など)

生活基盤の立て直しを目的として支援します。

2、フードバンク事業

規格外の品物や賞味期限が近い食品などを困っている方へ配布します。

3、グラウンドゴルフ事業

地域の高齢者を対象に法人の敷地に整備したグラウンドゴルフ場を低料金で開放し、いつまでも元気に過ごせるよう支援を行います。

4、わかばカフェ

コロナ禍前と同様の時期に再開します。第二火曜日の14時から認知症当事者や認知症高齢者を抱えるご家族、地域の高齢者の集いの場を提供します。介護の専門家であるケアマネージャーが常駐し、介護の相談ごとにお答えします。

6、地元自治会祭りへ場所を提供

10月に行われる地元自治会の祭りへ場所を提供します。また、ご入居者もお祭りに参加し雰囲気味わっていただきます。

*各種感染症の流行状況を鑑みて、計画を一部変更、延期または中止することがあります。

事業目標	【1】初回相談時には支援の必要性を協議し、判断する 【2】相談開始から3ヶ月以内で終結することを目標とする 【3】市内、県内のセーフティ事業連絡会等の研修へ参加し技術、技能の研鑽を行う
------	--

行動目標

【初回相談】

様々な機関からの問い合わせがあるため、本事業の支援について理解が不足している場合もあることから相談者に対して、本事業の対象となるかどうか、他の方法はないかを再アセスメントし、事業の内容をきちんと理解してもらおう。特に今後の道筋をどのように考えて現在支援しているのかを確認し、その場しのぎの支援にならないよう注意する

【支援期間を意識する】

本事業は原則一時的な支援であることを念頭に、長期支援にならないよう担当者と連携を図る。予め、対象者にも支援内容が伝わるよう、初回訪問で事業説明をしっかりと行う

【研修事業への参加】

本事業の対象者は様々な生活課題を抱えていることから、日々の相談援助技術を高めるため、また他施設の担当者の対応事例などを参考に研鑽する機会を作る。年2回以上、本事業関連の研修へ参加する

目 標	<p>【1】入園児を6月までに12名（稼働率63%）を達成する。</p> <p>【2】共同利用の促進（上期中に2企業2園児との契約を目標とする）</p>
-----	--

令和4年度の入園児目標

クラス	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
地域	6	7	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8.6
従業員	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
共同	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.5
合計	9	10	12	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13.1
稼働率	47%	53%	63%	74%	74%	74%	74%	74%	74%	74%	74%	74%	68.9%
一時預かり 利用可能数	10	9	7	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.9

行動目標

【入園児目標】

- ・ 6月までに12名（稼働率63%）を達成する。
- ・ 狭山、入間、所沢の子育て支援施設の他、役所への営業活動を行う。
- ・ 上記営業の他、従業員枠（採用と連携）の増加を図っていく。
共同利用の活用により、埋まりにくい従業員枠を補填する。狭山市と協力し、地域の企業への提携を周知していく。

【保育の質の向上】

- ・ 育成協会による企業主導型保育園の運営要綱にすぐに対応できるよう情報収集に力をいれ、適切に対応していく。
- ・ 異年齢保育の運営に対して日々研究し、最適な保育が行えるようチャレンジしていく。
- ・ 事故報告・ヒヤリハットを分析し、安全な保育が行えるよう運営を見直していく。

【仕事の効率化】

- ・ 経営資源（人、モノ、お金、時間）の効率化。適切な場所に適切な量、物を準備する。
- ・ 現行システムのチャイルドケアウェブの機能を使いこなし業務の効率化を実現する。
- ・ 新年度に向け退職者、新規入職者といった入れ替わりがあり、業務分担の見直しを図る。

事業所目標	<p>【1】年間稼働率平均104%</p> <p>【2】離職率10%未満を目指します</p> <p>【3】一時預かり保育は、年間利用人数の目標を350人以上をめざします</p> <p>【4】自然環境を取り入れた保育の実践。</p>
-------	---

行動目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用数	89	93	93	93	93	94	94	94	94	94	94	94	93
内訳	0歳児	5	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	9
	1歳児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	2歳児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	3歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
	4歳児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	5歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
稼働率	99%	103%	103%	103%	103%	104%	104%	104%	104%	104%	104%	104%	104%
一時預かり事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用目標数	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396

行動目標

<p>【1】年間稼働率平均104%を目指します。</p> <p>4月は3歳児を弾力運営で2名受け入れます。0歳児は9名受け入れ予定でしたが、入園希望者が5名となりました。5月以降に入園者がきても受け入れられるようにしてまいります。</p>
<p>【2】離職率10%を目指します。</p> <p>Do-capシートが定着してきており、直属の上司との面談もできている状況です。</p> <p>今年度は中間管理職の育成に力を入れてまいります。</p> <p>保育理念に基づいた保育の実践と、それを導くためのリーダーシップについて、また面談で大切にしたいことを伝えて参ります。</p>
<p>【3】一時預かり保育は、年間利用人数の目標を350人以上をめざします。</p> <p>今年度からは、一時預かりの児童は在園児童のクラスで一日を過ごす方法に変更いたします。開設から令和5年度までは、正職員2名で運営してまいりましたが補助金額がすくない事業のため、人件費の方がかかってしまう状況でした。クラスで過ごすことで担当を1名にすることができますので、人件費を改善することができます。</p>
<p>【4】自然環境を取り入れた保育の実践</p> <p>乳幼児期から自然の中で過ごす体験を子どもにさせてあげたいと思う保護者様が増えており、入園希望者の方の多くは当園を選ぶ要因として、自然の中で過ごせる、ひろい園庭でめいっぱい遊べるところにひかれて入園されております。保育の研究では、非認知能力を身に着ける環境として自然での活動が重視されてきております。当園でも自然環境を活かした保育のメリットを理解し、子どもたちがさまざまな力を身に着けられるようなかわり方を保育士が身に着けていけるように、より充実した自然保育を進めてまいりたいと思います。自然保育専門リーダーの人数を増やし、ピオトープ作りを進めたり、NPO法人森のようちえんの加入園への視察などで交流を進めてまいります。</p>